

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第1回斑鳩町男女共同参画推進委員会
開催日時	令和7年5月12日（月）
	午前10時00分～11時01分
開催場所	斑鳩町役場3階 第1会議室
議長等の氏名	会長 大方 美香
出席者（委員）の氏名	石川 裕之、上田 昌功、大方 美香、萩原 有紀 宮崎 高尚、山本 結子
欠席者（委員）の氏名	－
事務局職員職氏名	町長 中西 和夫 総務部長 西巻 昭男 政策財政課長 中尾 歩美 政策財政課課長補佐 岡山 真由美 政策財政課主査 中林 優介 委託事業者：(株)サーベイリサーチセンター 萬関 明子
議題	(1) 第4次斑鳩町男女共同参画推進計画策定の進め方 (2) 斑鳩町男女共同参画に関する住民意識調査の結果について
会議結果	発言内容のとおり
会議経過	1. 開会 町長挨拶 2. 委員委嘱 3. 委員・事務局紹介 4. 会長及び副会長の選出 会長 大方 美香委員を選出 副会長 石川 裕之委員を選出 5. 諮問 第4次斑鳩町男女共同参画推進計画の策定に関する事項について調査及び審議 6. 議事 事務局から会議資料確認 会議録の署名委員として、石川委員と山本委員を指名 (1) 第4次斑鳩町男女共同参画推進計画策定の進め方 事務局から資料に基づき説明 質疑等、発言なし

	(2) 斑鳩町男女共同参画に関する住民意識調査の結果について 事務局から資料に基づき説明 7. その他 事務局から次回委員会の日程について説明 質疑等、発言なし 8. 閉会
会議資料	資料1 斑鳩町男女共同参画推進条例 資料2 斑鳩町男女共同参画推進委員会 委員名簿 資料3 第4次斑鳩町男女共同参画推進計画の策定について 資料4 第4次斑鳩町男女共同参画推進計画策定スケジュール 資料5 住民意識調査報告書
発言者	発言
山本委員	(2) 斑鳩町男女共同参画に関する住民意識調査の結果について 私はいわゆるリケジョで、男性が多い社会の中で今まで過ごしてきた。大学も100人ほどの学科の中で女性は10人ほど、会社に入っても女性総合職は100人中8人だった。常に男女平等とは何か、何故私はやらせてもらえないのか等、いろいろ感じながら過ごしてきたので、私の話がお役に立てればという気持ちで参加している。 初めてこのことを知る人が多いという結果で、広報活動の必要性があるが、私も仕事をしている中で、その難しさを感じている。行政は、計画を策定して総合的にまとめるのは上手だが、それを広めるのが下手だと思う。私は資料を作成する際に、それを見た方の行動変容を促すことができるかを重要視している。そこに本気度が現れると考えている。正しく並べるだけでは、人の心に届かないので、いろいろ工夫が必要である。その点を広報活動ではぜひ考えてほしい。 また、DV等新たな項目が追加されているようだが、私はコミュニケーションの活性化について職場で取り組んでいる。相談できるコミュニケーション力があるか、言葉で表せる力があるか、そういう関係を築けているかということはコロナ禍以降問題が起きている。皆さん敏感になってプライベートについて聞かないことが多く、嫌な気持ちになることは

	少なくなっているかもしれないが、一方で関係は希薄になっているかもしれない。ちょっとしたこともすぐ聞ける相手がなくて、困ってしまう若い人が多いように感じている。それは職場だけでなく、住民同士でも近隣との付き合いや自分の思いを伝える能力、お互いに話を聞いて良いところを見つけていく能力を磨いていく必要があるのではないか。そういう事業も増やしてもらえたらという気持ちもある。
大方会長	貴重なご意見である。コロナ禍以降はオンラインが活性化しているが、いろいろな行事や体験を小中高でできなかったため、大学生になってもなかなかすぐにコミュニケーションが取れず、ストレス耐性が低かったり心が折れやすかったりする。
石川委員	非常に的確な分析をしていると感じた。ハラスメントについても、意識が高まっているからこそ認知件数が増えている。いじめも同様で、認知件数が増えることは一概に悪いことではない。 気になったのは、男女の地位の平等感があまり増えていないことである。例えば、法律や制度上において、女性はやはり男性優遇であると回答しているが、男性のうち1割は女性優遇であると感じている。理想としては両性でちょうど良いバランスのところが増えてほしいが、そのあたりの対応を考えていくことも必要だと思う。 今回、性的マイノリティに関する設問があり、非常に良かったと感じている。アメリカ等では、性的マイノリティに対する様々な配慮に逆風が吹いているところがあるが、男女共同参画社会の実現のためには、性的マイノリティに対する視点も必要だと感じている。
宮崎委員	男性のほうが優遇されている、女性のほうが優遇されているという意見が、細かく内容によってわかれている。例えば会社や家庭の中で、お互いがどう思っているのか、もう少し知りたい。会社では、上司の男性が女性のことを考えてやっているつもりでも、女性側から見るとそうは思っていないこ

ともある。先ほど山本委員がおっしゃった、コミュニケーションや意思疎通ができていないところがあるのではないかな。家庭も同様で、そういう実態も隠れていると思う。そのあたりを、斑鳩町や国が男女共同参画という大きなテーマで周知することによって個人個人が改めて考えたり相手の意見を聞いたりする機会になると思う。

上田委員

人権擁護委員を務めており、相談に来られる人の言葉を傾聴することは大事と感じている。

小学校で勤務していた 30 年前から、教育現場は男女混合名簿やタブレットを使用した授業等、どんどん変わっていき、先生方も時代に合わせて変わっていく必要がある。

私も若い頃は家事等をしなかったが、今は妻も高齢になっているので、掃除や炊事、ごみ出し等もできるようになり、男性や女性の役割ではなく、人として意識の変化や啓発はすごく大事だと学んでいる。

大方会長

現行の第 3 次斑鳩町男女共同参画推進計画の表紙にもあるように「女（ひと）と男（ひと）が輝く未来計画」であり、男女共同参画とは言いが、「ひと」の計画として進めている。

萩原委員

自治会の班長になると、名簿が回ってくる。自治会の名簿は世帯主になっていて、自治会では世帯主の奥さんと呼ばれる。旧姓のアイデンティティで育ってきた中、「新姓の奥さん」になり、さらには下の名前も呼ばれず、下の名前で呼んでくださいと言っていた頃もあったが、最近あまり気にならなくなった。名簿にはご主人の名前が載っていても、実際の活動は奥さんがしていることに不公平感を感じるというより、そのことによって女性は地域の中で繋がりができて有難いと思えるようになった。夫婦で団塊ジュニア世代なので、そろそろ定年がみえてくるようになると、夫は地域で繋がりを持たないままリタイヤして自宅にいるようになると、可哀想に思えて、地域の事業にはなるべく引っ張り出して、私が夫の友達作りを積極的にするようになった。

住民意識調査報告書の 38 ページは、「家庭内での役割分担

	(理想)」として「地域活動や学校行事への参加」と一緒になっているが、例えば参観日は男性も仕事を休んで夫婦で出席している人が現在は圧倒的に多い。でも、自治会の引継ぎ等では休みにくいと聞く。子どもの学校行事と地域の行事では、会社の理解や男性本人の気持ちが違う。 住民活動団体の事業として、月1回、住民の交流の場として「まちづくり純喫茶」を開催しているが、友達を作りにきたという男性もおられ、多くは70歳代である。若い方は今のうちから地域と交流して地域のつながりを作って、高齢者はそのような場で住民同士の交流ができれば良いと思う。
上田委員	30年前は入学式や卒業式でも一人のお子さんに保護者一人だった。今は、中学校の平日の運動会にもご両親で参加されるようになった。
大方会長	参観だけでなく、全員が取得できるわけではないが、育児休業も男性が取得しやすい雰囲気になってきている。
山本委員	地域活動でいえば、例えばPTA会長や町内会長は男性がするという空気感を今も感じる。夫はPTA会長をしたが、参観や学級懇談に多く参加していたのは私であったりする。 また、町内会の役員の集まりには夫が行くが、その集まりについても、夫の母に「妻はお茶を入れにいくものだ」と諭されるなどする。世代間の認識の違いも超え難い。そこで「いいえ、私はやりません」で社会が変わるわけではない。上の世代の人はそれでうまくやってきたという自信があるから私達に言っているので否定してはいけないと思うが、価値観が昔から変わらない中のコミュニケーションの取り方が難しいと感じている。 私は今、中2と小6の子どもがいる。ママ友の中でも、目立って嫌だと思ふ気持ちがあり、その気持ちは何かと考える。職場のように立場が決められていると、女性であっても割と上手く回るが、地域活動のようにみんな平等の中でリーダーを決める時に目立ってしまうと反感を買うこともある。だからといって、ずっと男性で固定するのも違うと思う。過

	渡期だと思うが、いつも悶々と考えている。
大方委員	日本の少子化対策が上手くいっておらず、結婚しない人が増えている。子どもを持つことがリスクだと言う人もいる。 対面的なことはしんどいのが今の世代ではないか。
石川委員	同感である。今の学生は、学びに対しても自分の人生に対してもコスパ（コストパフォーマンス）・タイパ（タイムパフォーマンス）を大事にしている。そうになると、結婚・出産・子育てはコスパ・タイパが悪いので避ける。女性は特に、結婚しても今は働かないといけなし、おまけに家事もしないといけなし、さらに出産・育児もあるとやっていられないということはあると思う。そのように若い女性に思わせてしまう日本社会の現状にも問題がある。
萩原委員	山本委員がおっしゃった、リーダーは男性がやる空気感は学校教育でもいまだにある。うちの長女は引っ込み思案だったが、女子中学・高校に進学してからリーダー職に手をあげやすくなったと言っている。本人の性質にもよると思うが、男性がいるとリーダーシップを取ることに遠慮してしまう。 本当の男女平等が訪れる時は、女子中学、女子高校、女子大学のような性差がある学校が無くなる時ではないかという話はしているが、女子生徒だけで8～9クラスあるような学校に進学している中、女子教育の中でリーダーシップを取りたい女子生徒は多いと感じている。
宮崎委員	斑鳩神社の祭礼で、役員が集まる場があった。従来、神輿は女性が乗り子として上に乗れないし、触れてもいけないというしきたりがある。若い人からは、そのあたりは徐々に変えていくべきではないかという意見もあるが、年配の人は昔からそうだから変えてはいけないという。参加する人が減っていく中、どこまで今の世の中に合わせていくか、難しい面もある。
大方会長	伝統や文化として、特に神事であれば意味が違う所もある

	が、人手の問題でやらざるを得ないという地域の話も聞く。 次期計画に向けて数値データは出ているが、斑鳩町として何を重点的に取り組んでいくのか。今回は基本的に一部見直し・修正で、抜本的な改革ではないと聞いている。 広報の問題は斑鳩町に常にあることで、それが斑鳩らしさともいえる。施策を大きく打ち出すような自治体と、粛々と取り組んでいる自治体と、どちらが住民に受け入れられやすいかという観点もあるが、町の努力が知られていないということが数値として出ているので、周知方法も検討願えればと思う。
山本委員	この計画には、数値的な目標がないと感じた。「認識度が何%」ではなく、参加者数や事業開催数の目標や、5年間の重点項目を示すとか、5年間で何をめざすのか目標とする数字があっても良いと思う。この数字を知っていますか、などポスターのキーワードにして住民へ周知することもできる。
大方会長	事務局はご意見を参考にしてほしい。 以上